Yamaha
Torakusu
山葉寅楠

日本の音を作り上げた 二人の天才

はままつピアノヒストリー

今でこそ、世界トップクラスのシェア率を誇る日本のピアノ。その原点は、浜松が生んだ二人の天才だった。国産ピアノ誕生に至るまでの、驚愕ストーリーを紹介!!

国産ピアノの歴史、その原点を辿るヤマハとカワイの物語

ふくよかな温かみのある音、胸躍る旋律、時に優しく、時に激しく、幾重にも連なってゆくメロディが人の心を揺さぶる。ひとたび演奏が始まれば、誰もが耳を傾けてしまう不思議な魅力を持つ楽器「ピアノ」。

ピアノといえば誰もが思い浮かべるのが、浜松が誇る2大メーカーであるヤマハとカワイ。両社がピアノメーカーとして名を馳せることになった歴史を辿ると、国産ピアノを初めて作った二人の創業者の名が浮かび上がってきた。

山葉寅楠（やまはとらくす）と河合小市（かわいこいち）。彼らが同じ時代に生き、出会っていなければ、現代の日本においてピアノがこれほどポピュラーな楽器になり得ることはなかっただろう。日本音楽産業史に燦然と輝く彼らの功績とその人生を、紐解いてみた。

すべては一台の壊れたオルガンから始まった

1887年、浜松がまだ東海道の宿場町だった頃、県内でも貴重な、小学校の輸入オルガンが壊れた。専門の修理工がいなかったため修理を依頼されたのが、精密機器修理の流れ職人・山葉寅楠だった。生まれて初めて見るオルガンを前に寅楠は「このオルガンを作ることができれば、将来きっと大きな国益になるだろう」と考え、修理の際に構造を図面に写すと、苦労を重ね、自作のオルガンを完成させた。

オルガンを担いで箱根の山を越える山葉寅楠が彫られたレリーフ。現在は「ヤマハリゾートつま恋」に展示されている。

オルガン担いで東京への旅

「初めに作ったオルガンは、調律が合っていなかったそうです」。山葉寅楠について教えてくれたのは、ヤマハの広報・石川さん。当時は『調律』という言葉が一般的ではない時代。音楽と調律の知識がない素人が、オルガンを作るのは無謀だ。「どうしてもオルガンを完成させたい寅楠は、東京の音楽取調所（現在の東京藝術大学音楽学部）で見てもらうため、オルガンを天秤棒に吊るし、それを担いで箱根の山を越え、東京まで運びました。そのときの様子は、レリーフにもなっていますよ」。出来るかどうかもわからぬオルガン作りのために箱根の山々を越える。その強靭な精神力はやがて、日本の音楽史の未来を変えることになる。

浜松初の楽器製造業の誕生

「これでは使用に堪えない」と、苦労して東京まで運んだオルガンは酷評された。しかし、寅楠は諦めない。東京で音楽の基礎と調律を勉強し、すぐに2台目のオルガンを製作。「これは船来品に代わりうるオルガンだ」と、今度は高く評価された。そして1889年、寅楠は浜松初の楽器製造業であり日本楽器製造（現在のヤマハ）の前身である『山葉風琴製造所』を立ち上げる。風琴（ふうきん）とはオルガンの事だ。東京の音楽取調所のお墨付きとあって、山葉のオルガンは次第に注文が増えていった。日本の音楽史が、徐々に動き始める。

天才少年との出逢い

類は友を呼ぶ。偉人は偉人と出会う。ある日、寅楠の作ったオルガンを自分も作ってみたいと、10歳の少年が寅楠に弟子入りした。少年の名は河合小市。生涯で実に18もの楽器に関する特許を取ることになる、後の河合楽器研究所（現在の河合楽器製作所）の創業者だ。河合小市の逸話を、河合楽器製作所の広報・吉原さんが教えてくれた。「手先が器用だった小市は幼少時代、目の前を通った馬車を気に入って、自分で小型の馬車を作ったそうです。大人の職人顔負けのしっかりした作りで、犬に引かせて遊んでいたとか」。発明好きの才能は、寅楠への弟子入り後、大きく開花する。「小市は大人でも解決できない問題を次々に解決し、ついには独自に輸入品のオルガンを研究して、新型のカップラー（オルガン部品）を発明しました。10歳やそこらの少年ですよ。とても信じられません」。寅楠と小市が出会うことで、日本音楽史の歯車が噛み合い、数年後には、歴史を大きく動かすことになる。

寅楠の死後、7人の職人と「河合楽器研究所」を立ち上げた、若き日の河合小市（写真中央）。

山葉と河合の努力の結晶 国産ピアノ第一号誕生！

小市の加入で益々事業を軌道に乗せた寅楠は、それまで誰も為し得なかった国産初のピアノ開発に挑んだ。しかし、ピアノの構造はオルガンに比べはるかに複雑で、製造は容易ではなかった。寅楠は研究のために渡米を決意。当時海外に行けるのは官僚ぐらいのもので、アメリカに行くというだけで浜松は町を挙げての大騒ぎ。出発の日、浜松駅のホームは見送りの観衆で溢れかえったという。寅楠はシカゴやニューヨークなど、107日間かけて100箇所もの工場を見て回った。

戦争で一度は工場が全焼した河合楽器。小市は頭の中の図面を頼りにグランドピアノを復活させた。

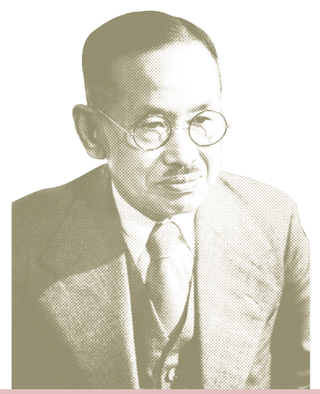
一方、日本に残った小市は、ピアノの重要部品であるアクション（打鍵装置）の研究に取り組んだ。若干14歳の少年は、家にも帰らず不眠不休で研究を続けたという。

そして半年後、寅楠がアメリカから持ち帰った技術と、小市が開発したアクションを合わせることにより、1900年、国産ピアノ第一号がついに完成した。この一台がなければ、日本の音楽史はどうなっていただろうか。何度失敗しても決して諦めず研究を重ねた寅楠と小市が、今日へと続く日本音楽産業史の大きな扉を開いたのである。

受け継がれる創業者の意志

「創業者の精神は、今も受け継がれ続けています」。今回の取材でヤマハと河合楽器製作所をそれぞれ訪れたとき、両社の広報である石川さんと吉原さんは、口を合わせたようにそう言った。もちろん取材は別々に行っている。

日本の楽器産業の道を切り開いた山葉寅楠。数々の発明で楽器王と呼ばれた河合小市。彼らが楽器製造に傾けた情熱と、先が見えなくとも最後まで諦めない不屈のフロンティアスピリッツは、時代を超えて脈々と受け継がれ、ヤマハと河合楽器製作所は今なお、新しい製品の開発に挑み続けている。



Kawai
Koichi
河合小市

カワイピアノの最高傑作『Shigeru Kawai』。「自分を表現できるピアノがない」と演奏活動を休止し、世界に衝撃を与えたピアノ界の至宝ミハイル・プレトニョフ氏に「このピアノなら弾いてもいい」と活動を再開させた超逸品。

KAWAI 株式会社河合楽器製作所

1927年創業。「世界一のピアノを作りたい」という創業者の意志を守り続け、ピアノを中心とした楽器製造や、音楽の普及活動を世界規模で展開。「もっと伝えたい、感動を。」をコーポレート・スローガンに掲げ、「感動製造業」として広く音楽文化に貢献している。

〈本社〉浜松市中区寺島町200
TEL.053-457-1213　http://www.kawai.co.jp/

YAMAHA ヤマハ株式会社

創業以来125年以上に渡り、「音・音楽」に関する製品やサービスを世界中に提供してきた、音楽業界のリーディングカンパニー。近年ではデジタル・ネットワーク業界などの新たな領域でも活躍。音楽を原点に培った技術と感性で、多方面に躍進を続けている。

〈本社〉浜松市中区中沢町10-1　http://jp.yamaha.com/

一世紀以上にわたるヤマハのピアノづくりの集大成、フルコンサートグランドピアノ『CFX』。開発期間19年。進化の先に辿り着いた、世界中のトップピアニストたちが求め続けた『表現力』。その音に、ピアノの頂点が見える。

Hamamatsu Music Spirits Piano History